

10・22の勝利を材料とする高揚へ！

日刊 動労千葉

79.10.25
No. 257

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
〔鉄電二二五八・九(公衆電話)七二〇七〕

あらゆる反動と弾圧はねかえす 組織体制の強化がちきりこつ！

10・22ストと減産A行動は拠点・成田を中心に全支部、全組合員の闘いによって敢然と打ち抜かれ、二本のジェット燃料列車をはじめとする成田支部担当の全貨物列車がストップし、管内の全列車が五〇分の遅れを現出した。10・20県労連集會から、10・21三里塚現地集會、成田拠点総決起集會、10・22スト、減産闘争と続く動労千葉の10・21国際反戦闘争への連続決起は、全国の多くの戦闘的労働者・人民に限りない共感と勇気を与え、権力・国鉄当局はもとよりその尖兵として暴力的スト破り策動を繰り返した「本部」反動暴力分子に対して決定的な打撃を与え、消耗感を与えるものとなったのである。

闘う動労千葉と「本部」反動分子の闘争放棄

10・22ストを中心とする動労千葉の「10・21国際反戦闘争」が貫徹され、勝利したことの意味は、第一に、新生動労千葉が、三・三〇結成大会以降、数億円の組合費と三万人のオルグ動員、さらには革マル学生を先頭とする竹やり部隊まで投入した動労「本部」のありとあらゆる暴力的組織破壊攻撃に対し、これを敢然とはね返し、反戦・政治闘争ストライキをもって闘い抜けるところまで組織体制を確立したということ満天下に明らかにしたことである。

今回の10・21闘争において、「本部」反動暴力分子は、カンパニア集會と、一日勤者のほとんどが休む日曜日の昼休み」に「勤務時間に二九分食いつまむ職場集會」という戦術しか振舞えず、「冬の時代」なるタコソポの中へますます深く逃げ込んでしまった。これは「安定宣言」路線で「三五万人体制」攻撃の前に国鉄労働者を売りわたし、右翼的労線統一に乗りおけることを何よりも恐れる反動分子の本性の現れである。

10・22ストを通して、真に労働運動の戦闘的再生を目指して闘う者と、その敵対者の姿はより一層鮮明となったのである。

真の労農連帯で廃港をかちとろう！

10・22スト貫徹の第二の意義は、政府・空港公団に対して、NHKニュースの中で「このままでは成田での航空機の運航が困難になる」と絶叫しなければならぬほどの打撃を与えるたということである。労働者が自らの職場・生産点で闘い、そのことを通して情勢を切り拓いてゆくことの力強さを、われわれの闘いははっきりと指し示したのである。

われわれは、10・21国際反戦闘争を闘うに当り、現時点における最も主要な反戦課題として、「国鉄三五万人体制」攻撃の現実立ち向かい、この間、三里塚・ジェット闘争をさらに発展させるもの

としての「反合・三里塚ジェット闘争」の第一歩として、「10・21闘争」に決起することを決意した。

10・12第一回臨時委員会で確認した「10・21」を第一波とし、ジェット増送強行時を第二波、一二月段階を第三波として闘うことを通して、七九秋年→八〇春闘の展望を切り拓いてゆくという路線の正義性は、10・22スト勝利によって、一層鮮明となった。

三里塚空港廃港への道は、二期工事敷地内を中心とする「農地死守」の闘いを主軸に三里塚現地への巨万の労働者・人民の結集と国鉄、私鉄、水道、電気、全通、電通等々、あらゆる職場・生産点での決起を結合させ、「空港」を陸の孤島と化し、マヒさせる状況にいたる文字通りの労農連帯の闘いをもってかちとることが出来るのである。10・22ストの勝利は、単にジェット燃料列車を止めたことにとどまらず、空港廃港への展望を可能とするものとして、かちとられたが故に、政府・空港公団・国鉄当局に対し、はかり知れない打撃を与えたのである。

二期工事粉砕・ジェット増送阻止！

「国鉄三五万人体制」粉砕！

10・22スト勝利によって闘う側の展望が大きく切り拓かれたと同時に、政府・空港公団・国鉄当局及びその尖兵にして親衛隊である「本部」反動暴力分子の追い込まれた危機感からくる反動がますます強まることも、われわれははっきりと見据えなければならぬ。

10・22ストの勝利も、この間の闘いのあらゆる成果も、全てが、二期工事粉砕、ジェット増送阻止、「国鉄三五万人体制」粉砕の「反合・三里塚ジェット闘争」の成否にかかっているのだ。

第二波、第三波の闘いを、いかなる反動、いかなる弾圧にも屈せず闘い抜く決意と組織体制を打ち固める闘いに、直ちに決起してゆこう。